

# シリーズ「結核」①

## 結核について「感染・発病」

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

副院長 駿田 直俊

重要です。

みなさんは、「結核」という病気を知っていますか。

患者さんを怖がり、不快な思いをさせることのために重要です。結核は「空気感染(飛沫核感染)」です。飛沫核という結核菌が混じった小さな核が空気に乗って周りの人に感染します。「目に見えない小さな結核菌が空気に乗って拡がる」と聞けば、怖く感じるかもしれませんが、実際は肺やのどにたくさん結核菌をもつ患者さんが、激しい咳やくしゃみをする

ときに結核の発病についてお話しします。インフルエンザは、周りの人から感染すると3〜5日で発病しますが、結核はそうではありません。まず、肺の奥まで入った結核菌はすぐに菌を増やすことなく、まず身を固めていったん寝たふりをします。そしてその人の抵抗力の低下など結核菌が増殖するのに適した状態をみはからい肺の中で増殖を始め、肺結核を発病します。抵抗力がしっかりした人は発病せず、感染を受けた人の約10%が発病すると言われてい

最近ではかなり減ってきていますが、平成26年の1年間で1万9千人余りが新たに結核を発病し、うち2千人余りの患者さんが亡くなられており、決して忘れてはいけない病気です。世界に目を向けるとアジア・アフリカ・東ヨーロッパを中心として年間900万人の新たな結核発病患者が発症、150万人の結核死亡があり、それら地域では薬の効きにくい結核(多剤耐性結核)が多く、その地域からの移民などからの多剤耐性菌発病・まん延など、国際的な対策の改善が望まれています。

患者さんと、たまたますれ違っただけで感染するほど感染力は強くありません。また、結核治療が開始されると2週間程でその感染性は圧倒的に低くなります。ですから、結核の感染を防ぎ、さらなる発病者を減らすには、患者さんを症状のない・菌量の少ない状態で早期発見し、適切な治療を開始することが最も

重要です。結核が多かった時期)に感染を受けて、今まで体の中で悪さをせずに潜んでいた結核菌が、他の疾患の合併や栄養状態の低下などによる免疫力低下やリウマチなどで免疫を抑える薬を使うことにより眠っていた菌を起してしまふことにより発病します。75歳以上の半数以上が、過去の生活の中で結核感染を受けていると言われており、皆が発病するわけではなく、この中の誰が結核を発病してもおかしくないといわれています。今回は診断・治療についてお話しします。

本日はまず、結核の感染と発病についてお話しします。結核は人から人へうつる(感染する)病気、感染症です。ではどのように感染するかを知っていますか。結核に限らず、その感染の仕方(感染様式)を知ることが、自分が感染しないために、また不必要にその

療を開始することが最も

重要です。

